

2003年10月23日

江崎美枝子

環境調査についての意見

1. 現地調査の検討方法について

協議員は、外環に特に関心が高い方だと思われそうですが、しかし何でも知っているというわけではありません。PI協議会で必要性の議論を進めながら、一人一人がこれだけ多くの環境側面の内容や意味を理解し議論するのは難しいのではないのでしょうか。一方、地域の中には各環境側面に関心の高い方がいますし、専門家もいるかもしれません。環境調査をひいては外環PIをより充実したものにするには、沿線全域に関わることはPI協議会で検討するとしても、地域に関することは、協議員がコーディネーター的な役割を担い、他の市民を巻き込んで調査箇所や実施方法を検討することが望ましいと思います。

また、方法書への区市長意見が10/30まで、都知事意見が12/15までに出されるのであれば、地域で調査箇所や実施方法を検討する場は早くても12月中に設置、1月以降に検討を開始すべきです。

なお、これらについても協議員が関わるのであれば、この間のPI協議会の実施は、現在の月2回から月1回にすべきです。

2. まだ明らかになっていない点について

インターチェンジの設置、換気所の位置、開削位置など、まだ明らかになっていない点があります。これらについては、計画が固まった後に、さらに追加調査をする必要があります。

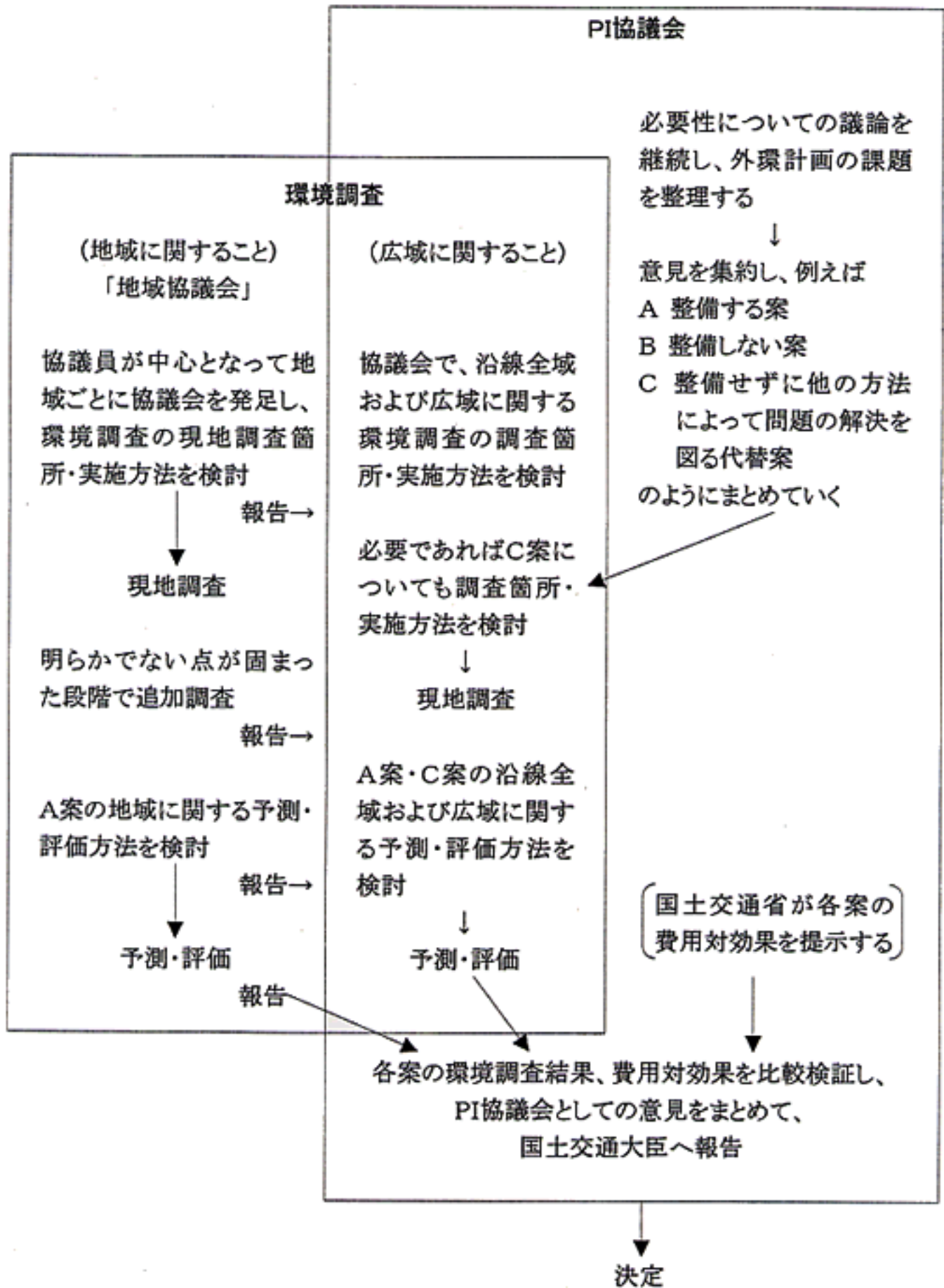
3. 構想段階での環境調査について

道路計画合意形成研究会の提言書にもあるように、構想段階では、「整備しない案」も含めた代替案との比較による検証が必要です。予測・評価に移る前に、何と比較すべきかPI協議会で検討しておくべきです。

4. 大深度地下について

方法書では基本的な道路構造に「地下式」「半地下式」「地表式」「嵩上式」とあるだけで、「大深度地下」とは書かれていません。国土交通省「大深度地下の公共的使用に関する基本方針」に記載されているような調査も行われるべきです。

5. 環境調査を加えたPIプロセス(案)



以上